

## 関与団体现地調査報告書

調査担当者	総合政策部次世代社会戦略局科学技術振興課 総務部教育・法人局法人団体課	科学技術振興係長 谷 誉祥 主幹 谷内 眞	主任 永瀬 豊 主査 林 克明	
調査日時	令和3年10月5日(火)	10:00 ~ 12:00		
調査団体	名称	(公財)北海道科学技術総合振興センター	法人番号	
	代表者	理事長 真弓 明彦	16	
	所在地	札幌市北区北21条西12丁目北海道大学構内コラボほっかいどう		
	対応者	総合企画部 部長 中井理恵 総合企画部 木村智恵子		

※ 確認結果の区分については、下記を目安として記載する。  
 A: 改善の必要がないもの  
 B: 団体の運営をより適切なものにしていくためには改善を加えた方がよいもの  
 C: 法令や定款に反するなど早急に改善をすべきもの

確認事項・項目・細目	確認書類	確認結果	指導事項等
<b>I 団体の適正運営</b>			
<b>1 最高決定機関や理事会の運営状況</b>			
(1) 社員総会・評議員会は法令、定款に基づき適正に運営しているか。		A	法令等に基づき、適正に運営している。
(2) 理事会など法令や定款に基づき、定期的に開催し、適正に運営されているか。	規則、定款	A	法令等に基づき、適正に運営している。
(3) 招集手続や決議、議事録作成は適正に行っているか。	定款、議事録	A	法令等に基づき、適正に運営している。
(4) 公益法人以外の法人においては、これに準じた取扱いを行っているか。		-	該当なし。
<b>2 諸規程の整備・執行状況</b>			
(1) 点検で整備済とされた諸規程はすべて確認できるか。	諸規程	A	整備済みである。
(2) 会計に関する規程を整備しているか。	会計規程、規則	A	整備済みである。
(3) 会計に関する規程に基づく手続きに従い適正に会計事務が執行しているか。 ※会計に関する規程に基づき現金・預金の取扱いや帳簿・記帳等に関する事務処理が行われているかどうかにより判断すること。	会計規程、規則、現金出納帳、通帳、決裁書、会計帳簿、証憑書類等	A	規程に基づき、適正に執行している。
(4) 役職員の給与等に関する規程を整備しているか。	役員報酬規程、職員給与規程	A	整備済みである。
(5) 役職員の給与等に関する規程に基づく手続きに従い適正に執行しているか。 ※給与等の支給方法、額等は役員報酬規程や職員給与規程に基づき行われているかどうかにより判断すること。	役員報酬規程、職員給与規程 振込控等、貸金台帳等	A	規程に基づき、適正に執行している。
(6) 国又は道からの補助金等に係る団体が行う契約について、競争性・透明性を確保することを原則として道に準じた規定を整備するなど適正な契約事務を執行しているか。 ※道に準じた規定を整備するほか、競争入札の導入や予定価格の公表など競争性や透明性を確保するための取組を行っていれば可とする。	契約に関する規定、契約書等	A	整備済みである。 ※入札については、過去5年間実績なし
(7) 入札の監視を行うための外部有識者や監査人等を委員とした入札監視委員会を設置するなど、入札の公正性、透明性、経済性を確保しているか。 ※入札の公正性等を確保するための規程の整備やその規程に基づく入札の実施、入札者や入札事務に関係のない職員の入札への立会等を実施していれば可とする。	入札に関する規程、契約手続書類、 入札監視委員会設置規程等	A	整備済みである。 ※入札については、過去5年間実績なし
(8) 公益法人のうち、道が資本金等の1/2以上を出えんしている法人は、役員の在任年齢に関する規程を整備しているか。 ※役員の在任年齢に関する規程とは、役員の選任年齢や退任年齢等を定めた規程をいう。	役員の選任に関する規程等	-	該当なし。
(9) 文書の処理及び保存について、重要または異例な書類は保存期間の延長も検討するなど、文書管理に関する規程を整備し、これに基づき適切に処理しているか。 ※規程を整備しているほか、重要書類等の紛失や誤廃棄の防止策を実施していれば可とする。		A	規程に基づき適正に執行に執行している。

確認事項・項目・細目	確認書類	確認結果	指導事項等
<b>3 監査体制</b>			
(1) 公益法人においては、外部監査を導入若しくは公認会計士や税理士あるいは経理事務精通者を監事に選任しているか。	外部監査契約書、監査結果報告書、経歴書、就任手続に関する規程等	A	公認会計士を監事に選任している。
(2) 監事は最高決定機関や理事会への出席義務、報告義務を果たしているか。	定款、運営規程、議事録、監査結果報告書	A	理事会において監査結果報告書の説明をしている。
(3) 内部監査や部内検査は定期的を実施しているか。	実施状況を確認できる書類	A	内部監査等を定期的に実施している。
(4) 公益法人以外の法人においては、これに準じた取扱いを行っているか。	外部監査契約書、監査結果報告書、経歴書、就任手続に関する規程等	-	該当なし。
<b>4 出納事務等に係る内部牽制状況</b>			
(1) 通帳と印鑑を別々に保管するなど担当者の判断のみでは預金の出し入れができないような体制にしているか。		A	経理担当者が通帳を常務理事が印鑑をそれぞれ別の金庫で保管管理している。
(2) 日常的な資金管理に当たっては使途や目的が明らかでないものがあるなど必要以上に預金口座を設けていないか。	通帳、現金出納帳、小切手帳等	A	必要以上の口座は保有していない。
(3) 経理担当者以外の責任者が定期的又は随時に現金・預金の残高などを確認しているか。	現金出納帳、預金通帳等	A	担当者の月締め報告に基づき、事務局長が確認している。
(4) 交際費については、適切に執行されているか。			
ア 執行できる場合や限度額等を定めているか。	交際費の執行に関する規程	B	交際費の執行について、現在検討中としている執行対象や限度額等について定めること。
イ 飲食等のあった年月日、場所、相手方、人数を記載した書面により、必要な支出か否かを事前事後にチェックするシステムを構築しているか。	証拠書類、決裁書等	A	事前事後に書面により確認している。
(5) 道からの補助金等は出納の明確化のため、どのように管理しているか。	会計帳簿、収支計算書等	A	明確に区分している。
(具体的な管理方法について記載)			会計システムを活用。
<b>5 支部を含めた内部統制の状況</b>			
(1) 支部までを含めた監事監査を実施しているか。	監事の監査報告	-	支部なし。

確認事項・項目・細目	確認書類	確認結果	指導事項等
6 財務の状況（道と連結決算の対象となる団体のみ記載すること）			
(1) 適切な会計基準を採用し、財務諸表（貸借対照表、正味財産増減計算書及びキャッシュフロー計算書をいう。以下同じ。）は正規の簿記の原則に従って正しく記帳された会計帳簿に基づき作成しているか。	総勘定元帳、会計帳簿	-	該当なし。
(2) 会計処理の原則及び手続き並びに財務諸表の表示方法はみだりに変更していないか。	会計規程、規則、財務諸表（注記）	-	該当なし。
(3) 法令や会計基準に則った資産、負債の評価が行われているか。	総勘定元帳、各種資産台帳、時価が確認できる書類等	-	該当なし。
(4) 資産の貸借対照表価額は、取得価額を基礎として計上しているか。	総勘定元帳、会計帳簿、各種資産台帳等	-	該当なし。
(5) 交換、受贈等によって取得した資産の取得価額は、取得時における公正な評価額としているか。	総勘定元帳、会計帳簿、各種資産台帳、固定資産税通知書、不動産鑑定評価書等	-	該当なし。
(6) 受取手形、未収金、貸付金等の債権については、取得価額から貸倒引当金を控除した額を貸借対照表価額としているか。	総勘定元帳、会計帳簿、各種資産台帳等	-	該当なし。
(7) 満期保有目的の債券並びに子会社株式（議決権の過半数を保有している場合の当該企業の株式をいう。以下同じ。）及び関連会社株式（議決権の20%以上50%以下を保有している場合の当該企業の株式をいう。以下同じ。）については、取得価額を貸借対照表価額としているか。	総勘定元帳、会計帳簿、証券等	-	該当なし。
(8) 満期保有目的の債券並びに子会社株式及び関連会社株式以外の有価証券のうち市場価格のあるものについては、時価を貸借対照表価額としているか。	総勘定元帳、有価証券台帳、証券、有価証券取引書、時価が確認できる書類等	-	該当なし。
(9) 棚卸資産（商品、製品、仕掛品、半製品、原材料、貯蔵品など）については、取得価額（時価が取得価額より下落した場合は時価）を貸借対照表価額としているか。	総勘定元帳、棚卸表、資産台帳、時価が確認できる書類等	-	該当なし。
(10) 有形固定資産及び無形固定資産については、取得価額から減価償却累計額を控除した価額を貸借対照表価額としているか。	総勘定元帳、固定資産台帳	-	該当なし。
(11) 資産の時価が著しく（帳簿価額から概ね50%を超えて）下落したときは、回復の見込みがあると認められる場合を除き時価を貸借対照表価額としているか。 （※減損処理一評価差額は正味財産増減計算書に計上されているか。）	総勘定元帳、各種資産台帳、時価が確認できる書類等	-	該当なし。
(12) 公益法人以外の法人においては公益法人に準じた取扱いを行っているか。	上記に準じた書類	-	該当なし。

確認事項・項目・細目	確認書類	確認結果	指導事項等
<p>7 情報公開の状況</p> <p>(1) 公益法人は、認定法に基づき、役員報酬等の支給基準の公開、事務所への据え置きや閲覧への対応をしているか。</p> <p>(2) 公益法人は、認定法に基づき業務及び財務等に関する資料を事務所に備え置き、一般に閲覧に供しているか。</p> <p>(3) 道が資本金等の1/4以上を出資又は出先している団体は、その職員数や給与に関する情報を公開しているか。</p> <p>(4) 公益法人は、業務及び財務等に関する資料をインターネットにより、常に最新の状態ですべて毎事業年度経過後3ヶ月以内に公開しているか。</p> <p>(5) 公益法人以外の法人は業務及び財務等に関する資料の公開について公益法人に準じた取扱いを行っているか。</p>	<p>閲覧規則、閲覧資料 (役員の報酬・退職金の支給基準)</p> <p>閲覧規則、閲覧資料(事業報告書、決算関係書類、事業計画書、予算関係書類)</p> <p>閲覧規則、閲覧資料 (職員数や職員の給与に関する情報)</p> <p>インターネット(事業報告書、決算関係書類、事業計画書、予算関係書類)</p> <p>閲覧規則、閲覧資料、インターネット(事業報告書、決算関係書類、事業計画書、予算関係書類)</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>—</p> <p>A</p> <p>—</p>	<p>閲覧資料をロビーに据え置いている。</p> <p>閲覧資料をロビーに据え置いている。</p> <p>該当なし。</p> <p>3ヶ月以内に公開している。</p> <p>該当なし。</p>
<p>8 財産の運用状況(道から出先等を受けている公益法人及び一般法人のみ記載すること。) ※道の出先等以外の財産についても含めて記載すること。</p> <p>(1) 道の出先等々の運用は、点検調書の「運用方法・金額」欄に記載されているとおりになっているか。</p> <p>(2) 財産の運用に関し、基本的な考え方や最高決定機関などを明確にした管理運用規程を策定しているか。</p> <p>(3) 既に点検調書の「運用方法・金額」欄に「その他債権」として記載されている場合は、金利や為替、債権等の市場動向、発行体の経営状況などを常に把握し、途中売却の可能性などを検討していることを書面により確認できるか。 ※売却する場合は原則として、元本の毀損は避けること。</p>	<p>財産目録、資産台帳、残高証明書等</p> <p>財産管理運用規程</p> <p>法人内部で検討したことが確認できる書面</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>	<p>該当なし。</p> <p>該当なし。</p> <p>該当なし。</p>

確認事項・項目・細目	確認書類	確認結果	指導事項等
II 団体の健全経営			
1 健全な経営			
(1) 財務状況の現状認識、問題点への対処方法及び今後の見通し (具体的な内容を記載)			財務状況については、各種指標とも概ね健全な範囲で横ばいとなっている。借入金についても前年度比550百万円増加しており、これに伴い流動比率の低下が見られるが、一部借入の償還日がたまたま年度を跨いだ4月2日になったことによるもの。固定費の増加もチャレンジフィールド北海道等の新たな事業開始に伴うものであり団体として財務的な面での懸念はない。
(2) (1)で問題点への対処方法を記載した場合はその対処方法は適切か。 ※対処方法が課題解決に効果的であるかや実現が可能かどうかなどにより判断すること。	貸借対照表、正味財産増減計算書等	A	問題なし。
(3) 中長期の経営計画や改善計画などを策定しているか。	経営計画、改善計画、事業計画等	A	中長期的なアクションプランを策定している。(2030ビジョン)
(経営計画や改善計画などを策定している場合) ア 経営計画や改善計画などの内容は適切か。 ※経営計画や改善計画などの内容が実現可能かどうかにより判断すること。	経営計画、改善計画、事業計画等	A	実現可能であり、適切な内容である。
イ 経営計画や改善計画などは実行されているか。	経営計画、改善計画、事業計画等	A	計画どおりの事業推進を行っている。
(経営計画や改善計画などを策定していない場合はその理由を記載)			

確認事項・項目・細目	確認書類	確認結果	指導事項等
Ⅲ 団体の自立化			
1 団体を取り巻く環境			
(1) 団体の目的や実施事業に対する社会的要請の変化への対応は適切か。 ※実施している変化への対応が合理的であるかどうかにより判断すること。	事業計画、収支予算書等	A	道内における科学技術の振興や、基礎研究から実用化・事業化までの一貫した支援活動によって道内産業の振興を図り、活力ある地域経済の実現と道民生活の向上に資するという財団の目的に変わりはない。内外の厳しい経済状況など外部環境の変化に対応し、北海道のさらなる産業発展に資することが引き続き課題となる。
(2) 道の施策推進における役割を十分に果たしているか。 ※道政上の位置づけや施策の方向性と合致しているかどうかにより判断すること。	事業計画、事業報告	A	科学技術・産業技術の振興、技術の振興・発展のための基盤強化、基礎研究から実用化・事業化までのステージに応じた支援などは科学技術の振興に係る道の施策に合致している。
2 補助金等(補助金、負担金、交付金及び委託料)			
(1) 道からの補助金等の縮減又は廃止に向けてより効率的な執行はできないか。	会計帳簿、証拠書類、補助金等の現地調査等の結果等	A	可能な限り経費を削減するなど、効率的な執行に努めている。
(2) 道からの補助金等(委託料は除く)に頼らず事業が実施できるように努めているか。 ※受益者負担に基づく利用者からの負担金徴収などによる収入増加の取組などにより判断すること。	中長期計画、事業計画、事業報告、収支予算書等	A	自主財源である会費について財団のウェブサイトやメールマガジンなどを利用して周知に取組む等、確保に努めている。また基本財源等の適切な運用により、運用益の確保に努めている。
3 職員派遣			
(1) 派遣職員には派遣目的に沿った業務を適切に行わせているか。	業務日誌、決裁書等	A	道内各地のクラスター形成や産学官連携に対する知識と経験を活かした業務に従事しており、目的に沿っている。
(2) 派遣職員の引揚げに備えた準備を行っているか。 ※プロパー職員の採用や人材育成などの検討を行っているかどうかにより判断すること。	中長期計画、職員採用計画、人材育成計画、研修記録等	A	会員企業や関係団体からの職員の派遣を受けて業務を遂行しており、その役割は重要であることに加え、事業内容の社会的必要性の高さからも、道職員に限らず派遣職員の引き揚げは困難な状況にある。
4 公益法人等に係る出えん金等			
(1) 道からの出えん金等は出えん目的に沿って適切に活用されているか。	事業報告、貸借対照表、財産目録等	-	該当なし。
(2) 道からの出えん金等の財産の管理は適切か。 ※基本財産等として位置づけられ、その使用に当たっては基本財産管理規程等に定められた手続きを経ることになっているかどうかにより判断すること	資金管理規程、規定貸借対照表、財産目録等	-	該当なし。

確認事項・項目・細目	確認した内容(実態などを記載)
<p>5 道の施策推進のための意見交換等</p> <p>(1) 団体の実施事業は道施策の推進にどのような効果があるか。</p> <p>(主な実施事業)</p> <p>(具体的な効果や理由を記載)</p> <p>(2) 道の施策推進に当たった課題</p> <p>(ある場合は具体的な内容を記載)</p> <p>(3) 道関与の縮減等による自立化に当たった課題</p> <p>(ある場合は具体的な内容を記載)</p> <p>(4) 道の施策推進や自立化を行うに当たった道への要望</p> <p>(ある場合は具体的な内容を記載)</p>	<p>イノベーション創出事業、リサーチ&amp;ビジネスパーク整備推進事業</p> <p>財団の行う事業や道内の研究開発推進や、研究成果の実用化・事業化に貢献しており、道が施策として進める科学技術の振興に合致している。</p> <p>国などの補助金の規模が縮小する中、より効率的な事業運営を行い、引き続き財源や人材の確保に努める。</p> <p>自立化に当たって重要となる自主財源については、厳しい状況にあるものの、引き続き各方面へのPR活動に積極的に取り組むなど、確保に努める。また、事業運営上重要な役割を担っている道をはじめとする外部から派遣職員については、現状では最小限の人員であり、今後も維持に努める。</p> <p>北海道からの補助金である研究開発助成事業は道内の大学と企業が共同研究を事業化する上で、財団の基盤となる事業、道が施策として進める科学技術の振興に合致しており、引き続き補助をお願いしたい。</p>
<p>IV 点検結果に基づいて行った指導事項等</p> <p>・なし</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>	
<p>&lt;確認結果&gt;</p>	
<p>1 前回指導事項等の改善状況</p> <p>・交際費の執行については、あらかじめ執行対象や限度額等を定めること。一検計中</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>	
<p>2 今回の調査における指導事項等</p> <p>・交際費の執行について、現在検計中としている執行対象や限度額等について定めること。</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>	